

# 千葉公園の歴史を辿る

現在は市民の皆さんの貴重な憩いの場となっている千葉公園も、歴史をたどると意外な一面を覗かせています。公園ができてから半世紀以上。千葉の都心部に位置し、市の発展と歩みを同じしてきた千葉公園の足跡をたどってみましょう。

## 江戸時代



池の周辺は、千葉寺・寒川村と作草部村との共同の作業地で、アシなどが生える沼地同然のところだったようです。

ある時、所有をめぐる争いが起きました。

綿打ち職人のひらめきにより、千葉寺・寒川村が境界紛争に勝利しました。その気転を褒め称え、綿打池と名付けられたとも言われています。

文久元年（1861）の千葉八景には「綿打池の薄霞」とあります。

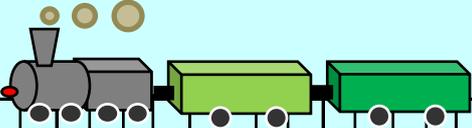
## 明治41年(1908)



戦前、轟町・作草部町・椿森・弁天地区には特に、軍事施設が集積していました。

その中で綿打池周辺は、鉄道第一連隊の演習場として使用され、戦地での鉄道建設・修理・運転や敵地の鉄道を壊すための訓練が行われていました。

現在も、当時造られたトンネルや橋脚などが残っています。



## 昭和8年(1933)



現千葉公園の一部でもある、荒木山公園を建設。

昭和7年、敵に囲まれた領事らを救うため出発した荒木大尉らは、脱線器を使い見事、敵列車の攻撃を防ぎました。しかし、積込まれていた岩から身を防ぎきれず、下敷きとなり戦死しました。

荒木大尉を悼む鉄道第一連隊の兵達により、銅像が建立され、以後荒木山と呼ばれるようになりました。

## 昭和20年(1945)

戦争により物資が不足し、樹木のほとんどが切り倒され燃料となり、敷地の一部は食糧難を補うため、菜園にされたと言われています。

## 昭和21年(1946)

戦災復興事業として **都市計画決定**

## 昭和24年(1949)



千葉競輪場が開設。

連日、にぎわいをみせ苦しい市の財政の助けとなり、復興に大きく役立ちました。

野球場完成。

昭和48年には、ナイター用の照明設備も完成しました。

## 昭和27年(1952)



綿打池をボート池として整備。

当時は、木製のボートを使用しており、宮内市長(当時)による初乗りが行われました。

その後、貸出がスタートされました。

県農業試験場より、大賀ハスが分根され、弁天池(現在のショウブ園)に植え付けられました。

## 千葉公園 歴史の1ページ ①



現在の荒木山頂上に建設されていた、高さ28mの展望台からは、遠くまでよく見渡せたと言われています。

昭和36年(1961)建設

## 昭和31年(1956)



体育館が完成。  
建設当初は、県が所有していました。  
(昭和48年に市へ移管)  
当時は市内に大規模なホールが少なく、成人式やイベントなどに使用されることが多かったようです。

## 昭和34年(1959)

### 都市公園として公告

## 昭和35年(1960)

プールが完成。(市内はじめての市営プール)  
50m(9コース)プール、子供用プール、すべり台付きの徒歩プールがあり、夏にはにぎわいを見せています。

## 平成元年(1989)



好日亭(茶室)完成。  
モノレール建設に伴い現在地へ移転。  
春は桜、秋には紅葉と四季を感じながら、お茶会・句会など幅広く使用できる施設となっています。(有料)

## 平成3年(1991)



千葉都市モノレール開通。  
千葉公園駅が完成。

## 平成4年(1992)



雪つりが始まる。  
11月上旬より、3日~5日かけ10人前後で作業を実施。竹や縄を使い、つくり上げています。  
2月下旬まで、楽しんで頂けます。

50年以上の歴史をもつ千葉公園へ足を運んでみませんか？  
新たな発見があるかもしれません。



## 平成5・6年(1993・1994)



大賀ハスが、市の花に制定。  
政令指定都市になったことを記念して、市民の皆さんによって選ばれたシンボルです。  
平成5年(1993)ハス池約1000㎡を整備。  
翌年には蓮華亭(大賀ハス展示資料館)が完成。  
大賀ハスを主体とした花ハスの生態や文化などハスに興味を持って頂くきっかけとなるようパネル展示を行っています。  
その他に、イベントなどに使用されています。

## 平成17年(2005)



「千葉公園 花の輪」(ボランティアグループ)発足。  
四季を通じて花を楽しむことのできる公園となるよう、種まき・植付け・草取りなど市と市民の方々と協働で定期的に活動を行っています。(参加者募集中)  
その他にも、花に関するイベントなどを実施し、活動を広げています。

### 千葉公園 歴史の1ページ ②



現在のアガパンサス花壇あたりにインド産アカゲザルのいたサル小屋と、アヒル・カモ・クジャクなど約15種類の鳥が飼われていた鳥小屋のある小動物園がありました。  
当時は動物公園が建設前ということもあり、子供たちでにぎわっていました。

昭和31年(1956)建設